

子

二年 筆順 3
子 了子
シ・ス
こ

成り立ち



りようあしがおむつにつつまれた「あか子」のかたちをあらわした字で、「あか子」「おさな子」といういみをあらわしたものです。

「子ども（むすこ、むすめ）」のいみにつかいます。また、「ちいさい」ものですから、「ちいさい」といういみにもつかいます。

また、「菓子」「帽子」「椅子」「扇子」など、ものなまえのしたにつけて、いいやすく、きいてもわかりやすいようにつかうこともあります。このばあい「子」のいみはありません。

中国では、「孔子」「孟子」「朱子」など、ひとがらがくもんにつづれたひとをよぶのにこの字をつかいます。

使い方

▽なかのよい親子をみるのはたのしいものです。
▽りっぱな子宝にめぐまれてしあわせです。
▽それはりようけの子女のことではありません。
▽しばらく様子を見ることにします。

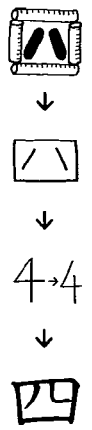
熟語例

▽親子（親と子。親とその子ども、といういみと、親子のような関係のもの、といういみとあります。例 親子電球）
▽子宝（子どものこと。「子どもはなによりもだいじな宝」といういみでいうことば）
▽子女（子はむすこ、女はむすめのいみ。むすことむすめ。また、「女の子」といういみにもつかいます。）
▽原子（原は「みなもと」「おおもと」。もののおおもとになる、いちばんちいさいもの、といういみ）
▽様子（子は菓子の子とおなじ。様。ありさま）
▽調子（この「子」もおなじ。おんがくの「調子」。「おとのたかひくのぐあい」からひろく「ものごとのできぐあい」のいみにつかわれます。）

四

二年 筆順 5
四 四
シ 四 四
よ・よん・よ 四つ・よ 四つ

成り立ち



「三」では「三」とまぎらわしいために、「口」とし、くちくちではないことがわかるように「かずをわけるしるし」の「ハ」をくわえたものです。「六」や「八」もそう

使い方

▽「ねんは「四つ」の季節にわかれていて、これを「四季」といいます。

熟語例

▽四季（はる、なつ、あき、ふゆの四つの季節）
▽四方（ひがし、にし、みなみ、きた。四つの方角）
▽四面（前、うしろ、ひだり、みぎ、の「四つの面」のこと。まわりじゅう。といういみ）
▽四国（むかし、あわ、さぬき、いよ、とさ、の「四つの国」のあったところ。いまの徳島、香川、愛媛、高知の四県のある「しま」のことです。）